

日本鳥学会  
2004 年度大会  
講演要旨集 電子版

詳細は

<http://gi.ics.nara-wu.ac.jp/OSJ04/>

をご覧ください

2004 年 9 月 17 日（金）－20 日（月）  
奈良女子大学

# 日本鳥学会 2004 年度大会プログラム

会期 9月17日(金) 各種委員会、評議委員会、自由集会  
9月18日(土) 口頭発表、ポスタートーク、ポスター発表、自由集会  
9月19日(日) ポスター発表、総会、シンポジウム、懇親会  
9月20日(月) 口頭発表、自由集会

会場 奈良女子大学 〒630-8506 奈良市北魚屋西町  
口頭発表 A 会場：理学部 G 棟 1F G101  
口頭発表 B 会場：理学部 G 棟 2F G201  
ポスター会場：ポスター展示 記念館 2F ホール  
ポスタートーク 理学部 G 棟 1F G101  
自由集会：理学部 G 棟各教室  
シンポジウム・総会：講堂  
懇親会：大学会館 1F 学生食堂  
各種委員会及び評議委員会：理学部 G 棟

## 日程

17日(金)	12:00~21:00	各種委員会	19日(日)	9:30~12:00	ポスター発表
	18:00~20:00	自由集会		12:00~13:00	昼休み
18日(土)	9:15~12:30	口頭発表		13:00~14:30	総会
	12:30~13:30	昼休み		15:00~17:50	シンポジウム
	13:30~14:45	口頭発表		18:00~20:00	懇親会
	14:50~15:30	ポスタートーク	20日(月)	9:30~12:30	口頭発表
	15:30~18:00	ポスター発表		12:30~13:30	昼休み
	18:00~20:00	自由集会		13:30~14:30	口頭発表
				14:45~16:45	自由集会

## 受付

■ 受付を理学部 G 棟 3F に設置します。G 棟南口から階段もしくはエレベータでお上がりください。受付時間は 17 日が 16:00 から、18、19、20 日は 8:30 からと致します。受付時に名札をお渡し致します。大会期間中は名札の着用をお願いします。

■ クロークを理学部 G 棟 3F G307 に設けます。預かり時間は 18、19 日が 8:30 から 18:00 まで、最終日の 20 日は 8:30 から 15:00 までとします。自由集会と懇親会にはクロークの荷物をお引き取りになってからご参加下さい。

## 一般講演

■ 口頭発表：発表時間 12 分、質疑応答 2 分 30 秒を厳守していただきます。発表開始後 10 分で予鈴、12 分で 2 鈴、14 分 30 秒で終鈴を鳴らします。発表は OHP に限ります。OHP の操作は演者または演者の同行者をお願い致します。

■ ポスター発表：ポスター発表は、9 月 18 日（土）と 19 日（日）の 2 回です。原則として、ポスター番号が奇数の発表は 18 日、偶数の発表は 19 日に、ボード前での解説をお願いします。ポスターは会期中掲示可能です。ポスターサイズは縦 160 センチ、横 80 センチ以内でご用意下さい。ポスターは 17 日の 16:00 からボードに貼ることが出来ます。掲示用の画鋏とテープは会場に用意いたします。ポスターは 19 日の 18:00 までにお片づけください。

■ ポスタートーク：18 日の口頭発表午後の部が終了後、口頭によるポスター宣伝を A 会場 G101 にて行います。持ち時間は 2 分、OHP を使用できます。

## 自由集会

■ 自由集会の開催時間は、17、18 日が 18:00~20:00、最終日 20 日が 14:45~16:45 です。機材の貸し出し返却、会場の運営、片づけは主催者の責任で行ってください。

## 総会

■ 総会は 19 日（日）の 13:00~14:30 に講堂で行います。学会員の方は極力ご出席下さい。出席出来ない方で委任状の提出が御済みでない方には受付にて委任状を用意いたしますので、署名・提出をお願いします。

## 昼食

■ 奈良女子大学周辺には徒歩数分の範囲でそれなりの数の飲食店があります。事前に弁当を予約されて受付時に弁当代を払われた方に、G 棟 3F 受付付近で弁当をお渡しいたします。

## 学内静粛と禁煙のお願い

■ 口頭発表会場となる理学部 G 棟は各研究室が入っております。教室移動の際には、努めて静粛をお願いいたします。また、ポスター会場の記念館は国の重要文化財に指定されており、建物内部での喫煙・飲食が堅く禁じられております。原則として、各会場建物内での喫煙はご遠慮下さい。

## 講演のビデオ撮影のマナーを守ってください

■ 本大会では演者の意向を尊重する意味で、講演（口頭・ポスター）のビデオ撮影は演者が「ビデオ撮影を認める」意思表示をされている場合に限り認めています。撮影をする際でも、講演を聞いている周囲の方の迷惑にならない範囲でお願いします。

# シンポジウム

シンポジウムは 19 日（日）の 15:00~17:50、奈良女子大学講堂で開催いたします。  
多数の方のご参加をお待ちしています。

## 托卵鳥と宿主の相互進化

オーガナイザー 高須夫悟（奈良女子大・理）・中村浩志（信州大・教育）

鳥類の育児寄生（托卵）では、托卵する側とされる側とで互いの繁殖成功を賭けた激しい攻防が起っています。より効率良く托卵を遂行すべく、托卵鳥はどのような形質・行動を進化させてきたのか？これに対抗して、宿主達はより効率良く托卵を排除すべくどのような進化を遂げてきたのか？最近の研究は、精緻かつ驚くべき両者の関係を明らかにしています。本シンポジウムでは国内外の托卵研究者を交え、托卵研究の最先端を紹介し、托卵という興味深い行動について聴衆を交えたディスカッションを行いたいと思います。

### S1 鳥類の育児寄生－托卵－を巡る諸説

高須夫悟（奈良女子大・理）

### S2 Common Cuckoo parasitism in Europe: behavioural adaptations, arms race and the role of metapopulations

Csaba Moskat (Hungarian Academy of Sciences, Hungary)

### S3 The enigma of imperfect adaptations in hosts of avian brood parasites

Eivin Roskaft (Norwegian University of Science and Technology, Norway)

### S4 日本のカッコウの行動・卵擬態・遺伝構造

中村浩志（信州大学・教育）

### S5 Deception and manipulation by cuckoos in the nest

Rebecca Kilner (University of Cambridge, UK)

総括 樋口広芳（東京大・農）

## 口頭発表

9月18日 A会場：理学部G棟1F G101教室

A会場 座長 演題番号 演題 (○：演者)

- 9:15 樋口亜紀 A-1-1 チョウゲンボウの営巣密度と行動時間配分の関係  
○本村健、関島恒夫、堀藤正義
- 9:30 A-1-2 市街地高圧鉄塔でのハヤブサの越冬と狩り  
○江崎保男、溝田浩美
- 9:45 A-1-3 長野県北部におけるハチクマの環境利用と食性  
○堀田昌伸、中村浩志、篠原喜運、宮川信夫、植松晃岳、久野公啓、佐伯元子
- 10:00 A-1-4 オオタカ繁殖巣における雛同士の捕食と侵入個体による雛の捕食  
○村岡政行、高野俊一
- 10:15 白木彩子 A-1-5 オオタカ (*Accipiter gentilis*) の聴感度閾  
○岩見恭子、山崎由美子、山田裕子、室伏三喜男、百瀬浩、岡ノ谷一夫
- 10:30 A-1-6 ハチクマの春秋の渡り衛星追跡  
○樋口広芳、中村浩志、植松晃岳、久野公啓、佐伯元子、堀田昌伸、時田賢一、森下英美子、守屋恵美子、田村正行
- 10:45 A-1-7 衛星画像を用いた猛禽サシバのHSI算定可能性  
○青島正和
- 11:00 A-1-8 越冬期におけるサシバの生息場所利用  
○呉盈瑩、藤田剛、樋口広芳
- 11:15 A-1-9 丹後半島太鼓山風力発電所が鳥類に与える影響  
○中津弘
- 11:30 田中啓太 A-1-10 リトルペンギンにおける雄の求愛声の音声要素と雌の反応への影響  
○宮崎正峰、J.R. Waas
- 11:45 A-1-11 ウトウにおける外部形態の性的二型は飛行といった機能に違いを産むだろうか？ **【B-2-13】 20日B会場 13:30-13:45 と入れ替え**  
○新妻靖章、綿貫豊
- 12:00 A-1-12 ルリビタキ雄の青色は雄の質を表すのか～形態形質からのアプローチ～  
○森本元、上田恵介
- 12:15 A-1-13 ツバメはなぜ集まる？  
○藤田剛、樋口広芳
- 12:30 昼休み
- 13:30 斎藤武馬 A-1-14 エナガ *Aegithalos caudatus* の本州・北海道産2亜種における形態的比較  
○新鞍彩子
- 13:45 A-1-15 現在、南大東島で繁殖しているウグイスの分類学的位置づけ  
○梶田学、高木昌興、松井晋、山本義弘、山岸哲
- 14:00 A-1-16 ニホンライチョウの遺伝的多様性と集団間の遺伝的距離  
中村浩志、所洋一、○四万田紀恵、森口千英子、馬場芳之
- 14:15 A-1-17 ミトコンドリアDNAコントロール領域を対象としたウミネコの遺伝構成の解明～一部の個体群に見られる創始者効果の形跡～  
○長谷川理、高木昌興、綿貫豊、阿部周一

14:30 A-1-18 郵送アンケートによる全国の高校所蔵鳥類標本の概要調査  
百瀬邦和、○浦野栄一郎

9月18日B会場：理学部G棟2F G201教室

B会場 座長 演題番号 演題 (○：演者)

- 9:15 天野達也 B-1-1 宍道湖・中海におけるキンクロハジロ越冬集団の餌利用と採餌器官形態  
○関谷義男、関島恒夫
- 9:30 B-1-2 個体数増加に伴うマガンの越冬地拡大  
○嶋田哲郎、畠山正治、宮林泰彦、呉地正行
- 9:45 B-1-3 エゾシカに侵入される越冬給餌場におけるタンチョウ個体群の行動時間配分  
○胡 東宇・正富宏之・福田弘巳
- 10:00 B-1-4 デコイを用いたナベヅルの誘引試験  
○清水利宏、森春彦
- 10:15 松原始 B-1-5 ウミネコ *Larus crassirostris* の営巣環境とハシブトガラス *Corvus macrorhynchos* による卵捕食:空間スケールの効果  
○風間健太郎
- 10:30 B-1-6 PHSを用いたカラスの移動追跡と環境利用解析  
中山圭子、森下栄美子、樋口広芳、○百瀬浩、藤原宣夫
- 10:45 B-1-7 播種期の鳥害を防ぐ新しい忌避剤の検討  
○吉田保志子、藤原正博、山口恭弘、百瀬浩
- 11:00 B-1-8 銃で撃つべきか、ワナで捕るべきかー岩手県のカラスー  
○藤岡正博
- 11:15 彦坂清子 B-1-9 水鳥がつくりだす池沼の水質変動～米子水鳥公園・つばさ池を例として  
○中村雅子、神谷要、相崎守弘
- 11:30 B-1-10 完新世最温暖期における鳥類相と縄文人の鳥類利用  
○江田真毅、小池裕子
- 11:45 B-1-11 ノグチゲラ *Sapheopipo noguchii* における採餌行動の季節変化について  
○小高信彦、金城道男、渡久地豊
- 12:00 B-1-12 ヤンバルクイナの生息域の減少と絶滅回避の方法  
○尾崎清明、馬場孝雄、米田重玄、金城道男、渡久地豊、原戸鉄二郎
- 12:30 昼休み
- 13:30 遠藤菜緒子 B-1-13 酒匂川における漁業被害対策  
○戸井田伸一・西田トミ子・山室一忠
- 13:45 B-1-14 衛星追跡によるカワウの行動圏調査  
○高木憲太郎、加藤ななえ、福田道雄、茂田良光、田辺仁、中澤圭一
- 14:00 B-1-15 尾鷲魚市場に依存している鳥類の生態について  
○武田恵世
- 14:15 B-1-16 東京湾岸下水処理施設屋上におけるコアジサシの人工営巣場所造成の成果と今後の課題  
○戸津久美子、藤田剛、柴田英美、増田直也、倉本宣、樋口広芳

9月20日A会場：理学部G棟1F G101教室

A会場 座長 演題番号 演題 (○：演者)

- 9:30 長谷川理 A-2-1 Potential risk of parasitism in relation to nest site characteristics on great reed warbler *Acrocephalus arundinaceus orientalis* in a patchy habitat  
○A. Roman MUNOZ, Maria ALTAMIRANO, Fugo TAKASU & Hiroshi NAKAMURA
- 9:45 A-2-2 コムドリの雄の plumage coloration の変異と繁殖行動  
○竹中万紀子
- 10:00 A-2-3 ヘルパーのいるハイガシラゴジュウマルハシの社会構造  
江口和洋、○上田恵介、永田尚志、早矢仕有子、高木昌興、天野一葉、山口典之、高木義栄、河野かつら、片岡優子
- 10:15 A-2-4 モズの親から雛への給餌を決める合図は何か？  
神田恵、松井晋、○高木昌興
- 10:30 小高信彦 A-2-5 ブッポウソウとオオコノハズクー中型樹洞繁殖性鳥類の繁殖生態ー  
○飯田知彦
- 10:45 A-2-6 自然採餌条件におけるシマフクロウの繁殖給餌生態  
○竹中健
- 11:00 A-2-7 シマフクロウの配偶関係ー離婚？・再婚・近親交配ー  
○早矢仕有子
- 11:15 A-2-8 アカゲラの古巣の生存分析  
○松岡茂
- 11:30 宮崎正峰 A-2-9 恋するズグロミゾゴイ  
○川上和人、藤田祐樹、神澤良子、川村七弥、村上美奈子
- 11:45 A-2-10 外洋性ミズナギドリ目海鳥はなぜ初繁殖が遅いのか  
○岡奈理子
- 12:00 A-2-11 カワウの出生コロニーでの定住状況  
○福田道雄
- 12:15 A-2-12 繁殖期におけるカイツブリのエサ生物について  
○風間美穂 【講演取りやめ】
- 12:30 昼休み
- 13:30 天野一葉 A-2-13 米子水鳥公園におけるカイツブリの営巣位置と水草繁茂の関係について  
○神谷要
- 13:45 A-2-14 伊丹市昆陽池公園における擬卵によるカワウ 繁殖抑制効果について  
坂根隆治、○高津一男
- 14:00 A-2-15 東北地方の水田地帯におけるカルガモの生息状況とそれに及ぼす要因  
○東淳樹、辻華織、奥山智子、佐藤太郎
- 14:15 A-2-16 Local migration pattern in some waders passing the Korea peninsula; Trematode, a new tracer for studying waders' migration pattern  
Chung Ok-Sik, ○Lee Woo-Shin

9月20日B会場：理学部G棟2F G201教室

B会場 座長 演題番号 演題 (○：演者)

9:30	森本元	B-2-1	北海道の湿原・草原における鳥相変化 ○玉田克巳、富沢昌章、梅木賢俊、高田雅之
9:45		B-2-2	北茨城における落葉広葉樹林の林齢と鳥類の種多様性との関係 ○東條一史
10:00		B-2-3	広葉樹林の越冬期鳥類群集はカラマツ林によって分断化されているのか？ ○山浦悠一、加藤和弘
10:15	黒沢令子	B-2-4	2000年噴火から4年を経た三宅島の鳥類 ○加藤和弘、山本裕、樋口広芳
10:30		B-2-5	伊豆七島のヤマガラ3亜種の個体数推定 ○藤田薫、篠原由紀子、松田久司、植村美由起、岩崎由美、藤田剛、樋口広芳
10:45		B-2-6	Seasonal variation in bird community structure along an elevational gradient in Taiwan ○Hau-Jie Shiu, Pei-Fen Lee
11:00		B-2-7	千曲川中流域で繁殖するシギ・チドリ3種の強弱関係 ○笠原里恵、加藤和弘
11:15	富田直樹	B-2-8	伝書バトの発熱I. リポポリサッカライドによる発熱 ○野本茂樹
11:30		B-2-9	イワヒバリの雄性生殖器の組織構造と精液形成 ○千葉晃、中村雅彦
11:45		B-2-10	日本国内のメジロにおける血液寄生虫の感染率の地域変異 ○永田尚志
12:00		B-2-11	フクロウ ( <i>Strix uralensis</i> ) 卵比重からの孵化日の推定 ○樋口亜紀、修理総一郎
12:15		B-2-12	昆陽池公園のカワウが石膏擬卵を暖めた温度について ○後北峰之
12:30			昼休み
13:30	江田真毅	B-2-13	足で潜水するヨーロッパヒメウのストローク調節 ○綿貫豊、高橋晃周、Francis Daunt, Sarah Wanless, Mike Harris、佐藤克文、内藤靖彦 <b>【A-1-11】18日A会場11:45-12:00と入れ替え</b>
13:45		B-2-14	木登りの進化を考えるー斜面における運動の種間比較からー ○藤田祐樹、川上和人、樋口広芳
14:00		B-2-15	ケリの外部形態にみられる性的二型 ○脇坂英也、中川宗孝、辻啓子、伊藤雅信



## ポスターセッション

9月18日(土) 15:30~18:00

9月19日(日) 9:30~12:00

会場：奈良女子大学 記念館 2F ホール

※ ポスターは両日とも展示しますが、セッションは2日間に分けて行います。ポスター番号が奇数の方は18日、偶数の方は19日に自分のポスター前での解説をお願いします。

P-01 テレメトリー法によるフクロウの行動調査

○阿部學、荒川茂樹、水越利春、桜井良樹

P-02 カラス2種の地上口コモーション

○松原始

P-03 種子散布者としてのヒヨドリの役割

○山口恭弘

P-04 暖温帯里山景観における先駆樹種アカメガシワの種子散布に貢献する鳥類

○吉野知明、藤原一曾

P-05 東京近郊で越冬するオナガガモ個体群の性比の偏り

○石鍋慎也・森貞久・杉森丈夫・山岸哲

P-06 日本を通過するメボソムシクイの繁殖集団の特定と、西表島における越冬個体の発見

○斎藤武馬、西海功、茂田良光、上田恵介

P-07 春の中継地におけるマガン *Anser albifrons* の脂肪蓄積

○森口紗千子、天野達也、牛山克己、藤田剛、樋口広芳

P-08 日本・韓国での同時カウント調査によるトモエガモ越冬個体数の推定

○田尻(山本) 浩伸, Hansoo Lee, Jin-Young Park, 大河原恭祐、大畑孝二、宮林泰彦、呉地正行

P-09 The Wintering Ecology of Black-faced Spoonbill (*Platalea minor*) in Seongsanpo, Jeju province, South Korea

○Chang-Yong Choi and Woo-Shin Lee

P-10 北海道北部海浜域における鳥類群集

○雲野明

P-11 種子散布供給源としての暖温帯天然林および保残帯における林分構造と鳥類群集

○佐藤重穂、倉本恵生、濱田哲暁、岩岡猛

P-12 伊豆半島における繁殖期の森林性および草原性鳥類群集 **【講演取りやめ】**

○藤浦あや子

P-13 印旛沼の鳥類相の変遷

○箕輪義隆、桑原和之、三沢博志、小田島高之、鈴木明、奴賀俊光、小林大光、米持千里

P-14 東京のヒバリの急激な減少とその原因

○植田睦之、松野葉月、黒沢令子

P-15 関東地方のカワウの分布と個体数の変化(1994年~2003年)

○加藤ななえ、高木憲太郎、成末雅恵、福井和二

P-16 ヤマドリの行動圏および環境利用様式

○川路則友、林暁央

- P-17 茨城県から千葉県のコナギの海岸におけるビロードキンクロ属 *Melanitta* 2 種の個体数変動と分布  
奴賀俊光, ○桑原和之, 箕輪義隆, 田邊以久雄, 綾富美子, 泉宏子, 本間征, 高島斎二, 小川和子
- P-18 ビデオ解析から見たカッコウによるオナガへの托卵行動の特徴  
○安藤大介、中村浩志、樋口広芳
- P-19 モズにおけるカッコウ卵の排除率の変化および雌親の年齢と排除との関係  
○今西貞夫
- P-20 ホトトギス (Little Cuckoo) は一日中、血を吐きながらなき続けているのか  
○内田博
- P-21 マガンは食物密度の高いパッチを選択しているのか？  
○天野達也、牛山克己、藤田剛、樋口広芳
- P-22 やんばるで繁殖するフクロウ類 3 種の巣内雛への給餌内容について  
○外山雅大
- P-23 コサギとゴイサギの「波紋漁法」  
○濱尾章二・井田俊明・渡辺浩・樋口広芳
- P-24 東京湾岸域におけるコアジサシ (*Sterna albifrons*) の食物条件  
○松岡好美、藤田剛、樋口広芳
- P-25 南大東島におけるダイトウコノハズクの生息状況と繁殖生態  
○赤谷加奈、高木昌興
- P-26 メボソムシクイの繁殖生態：さえずり頻度となわばり防衛  
○金子崇人、森本元、齋藤武馬、上田恵介
- P-27 東京圏におけるカラスの集団ねぐらの分布状況  
○川内博
- P-28 人為的な影響がコアジサシの繁殖に及ぼす影響の解明  
○北村亘、藤田剛、樋口広芳
- P-29 ヒバリはなぜ「麦畑」に？—行動から見た草原性鳥類の環境選択  
○黒沢令子
- P-30 岩木川下流部におけるオオセッカの繁殖状況～繁殖場所選択とヨシ産業との関わりについて～  
○竹内健悟、東信行、沼田彩友美
- P-31 海洋環境の変化がウミネコの繁殖成績に与える影響  
○富田直樹、高木昌興、綿貫豊
- P-32 飼育下のエトピリカのヒナはいつ巣立つか？  
○濱外晴美、福田道雄
- P-33 ライチョウの配偶者防衛行動 **【講演取りやめ】**  
○本間一成、中村雅彦
- P-34 ウトウの雛の成鳥に大事な時期は成長初期？それとも後期？  
○間部裕子、新妻靖章、綿貫豊
- P-35 樹洞営巣性鳥類のねぐら穴  
○村木尚子・柳川久
- P-36 イソヒヨドリの繁殖生態観察における赤外線行動モニタリングシステムの有効性  
○奴賀俊光、Christopher Paul Norman、森川由隆、宮崎龍雄

- P-37 亜熱帯性島嶼に定着したモズの産卵開始の決定要因－餌資源量と気候条件の影響－  
○松井晋、高木昌興
- P-38 河川におけるオジロワシとオオワシの採食生態－とくに餌資源量の減少に伴う採食行動の変化について－  
○白木彩子
- P-39 福島・新潟県境地域で確認された翼帯マーカークイイヌワシ若鳥について  
○根本理、松村俊幸、小澤俊樹、須藤明子、本田智明、杉山喜則
- P-40 森林の帯状間伐によるイヌワシの採餌場所整備効果：施行後 1～2 年目の結果  
○前田琢、由井正敏
- P-41 餌を介して猛禽類が汚染されている：食物連鎖のエコトキシコロジー  
○安田雅俊、山田文雄、川路則友、大河内勇、山崎晃司
- P-42 ユリカモメ *Larus ridibundus* の外部形態における性的二型性  
○有馬浩史、須川恒、大西尚樹
- P-43 コゲラ個体群の形態比較－四国・九州の野生個体と初列最外側羽を加えて  
○石田健
- P-44 ミズナギドリ科鳥類の頭骨から新情報を探る：可変光発生装置を用いた観察  
○糟谷大河、菊池芳文
- P-45 ハシブトガラスにおける鳴き声および発声器官の性差  
○塚原直樹、青山真人、杉田昭栄
- P-46 ハシブトガラスのメスにおける生殖腺の季節変動  
渡邊潤、祝暁波、○青山真人、杉田昭栄
- P-47 ハシブトガラス精巢と血中テストステロン濃度の季節変動の調査及び精細管内アンドロジェンレセプターの同定  
○祝暁波、渡邊潤、青山真人、杉田昭栄
- P-48 ニホンウズラの性比におよぼす環境ホルモンの影響  
○酒井秀嗣、佐藤恵、塩谷正勝、村田浩一、杉森文夫
- P-49 トビ飛翔筋の筋線維型  
○土屋剛
- P-50 マイクロサテライト DNA を用いたスズメ個体群の遺伝的地理変異  
○泉洋江、東正剛
- P-51 西日本地域におけるカラスバト *Columba janthina* の遺伝的構造  
○関伸一、高野肇、小高信彦、遠藤晃、高原健二
- P-52 コアジサシ *Sterna albifrons sinensis* の遺伝的構造の解析－渡りによる繁殖地・繁殖期の違いと遺伝的構造の対応関係－  
○染谷さやか、西海功、藤田剛、樋口広芳
- P-53 ミトコンドリア DNA 分析によるクマガラの遺伝的多様性の解析  
○中村充博、鈴木祥悟、由井正敏
- P-54 島嶼に離散分布するウチヤマセンニュウの保全遺伝学的解析  
○西海功、永田尚志、中村豊、藤田薫、樋口広芳、齋藤武馬、金昌會
- P-55 MHC クラス II、BLB、YLB 遺伝子座およびミトコンドリア DNA コントロール領域の DNA 塩基配列から見たライチョウの個体群変遷と MHC 多型

○馬場芳之、中村浩志、津田とみ、Alain Caizergues

P-56 マイクロサテライト DNA 分析によるルリビタキの性的二型の繁殖成功率に関する研究

○福永杏、森本元、上田恵介

P-57 Patch preference of birds at the Bibosoop of Korean traditional rural landscapes

○PARK C.R., SHIN J.H. and LEE D.

P-58 渥美半島大山周辺の野鳥と自然

○大羽康利

P-59 ヨシゴイの生活を支える「酸欠の池」

○佐原雄二、高辻陽平、磯見光代

P-60 宇治田原町・里山環境に於ける春季生息鳥類～希少種の生息状況～

○中川宗孝、脇坂英弥、辻啓子、上野きよ子

P-61 コシアカツバメの巣を利用する動物

○平田和彦

P-62 2003 年国後島における沿岸海鳥類の海上分布と繁殖分布調査

○福田佳弘

P-63 北海道苫前にて発見された風力発電機に衝突死したとされるオジロワシ含む鳥類剖検所見と野生動物医学的検討課題

○浅川満彦、吉野智生、相澤空見子、小野宏治、水野直治、横田 博、長尾雄一、谷山弘行

P-64 Preliminary results on the effects of aircraft spray of Fenitrothion on breeding success and body condition of nestlings

○LEE Chan-Woo, PARK Chan-Ryul, LEE Chang-Bae and KWON Tae-Sung

P-65 自然との共生をめざした自然再生の取り組み

○荒川茂樹、中村忠宏、金井次男、櫻井良樹、水越利春、村岡政行

P-66 北海道天売島におけるウミガラスの現状と保護

○小野宏治、佐藤美穂子、彦坂清子

P-67 野生鳥獣の生態記録・画像伝送システムの研究開発

○木下仁章、水越利春

P-68 東アジアにおけるハクガン (*Anser caerulescens*) の復元計画 IX

○佐場野裕、上村左知子、呉地正行、A. Andreyev, A. Kondratyev, E. Syroechkovsky, K. Litvin, V. Baranyuk, J. Takekawa, D. Orthmeyer, F. Cooke

P-69 森林内音環境モニタリング記録システムの試験開発

○志村正太郎

P-70 企業による野生生物保全への貢献事例とミサゴの繁殖場所選択文化の継承

阿部學、○本間拓也

P-71 島根県沿岸で確認された海鳥の油汚染

○森茂晃

※ アンダーラインはポスタートーク (9月18日 14:50- 15:30 @ A会場) を希望されている発表です。

## 自由集会

9月17日(金) 18:00~ 20:00

- M1 A会場 理学部G棟 G101  
ーカワウを通して野生生物と人との共存を考える(その7)ーカラーリングによる標識と参加型調査について考える  
高木憲太郎(バードリサーチ)

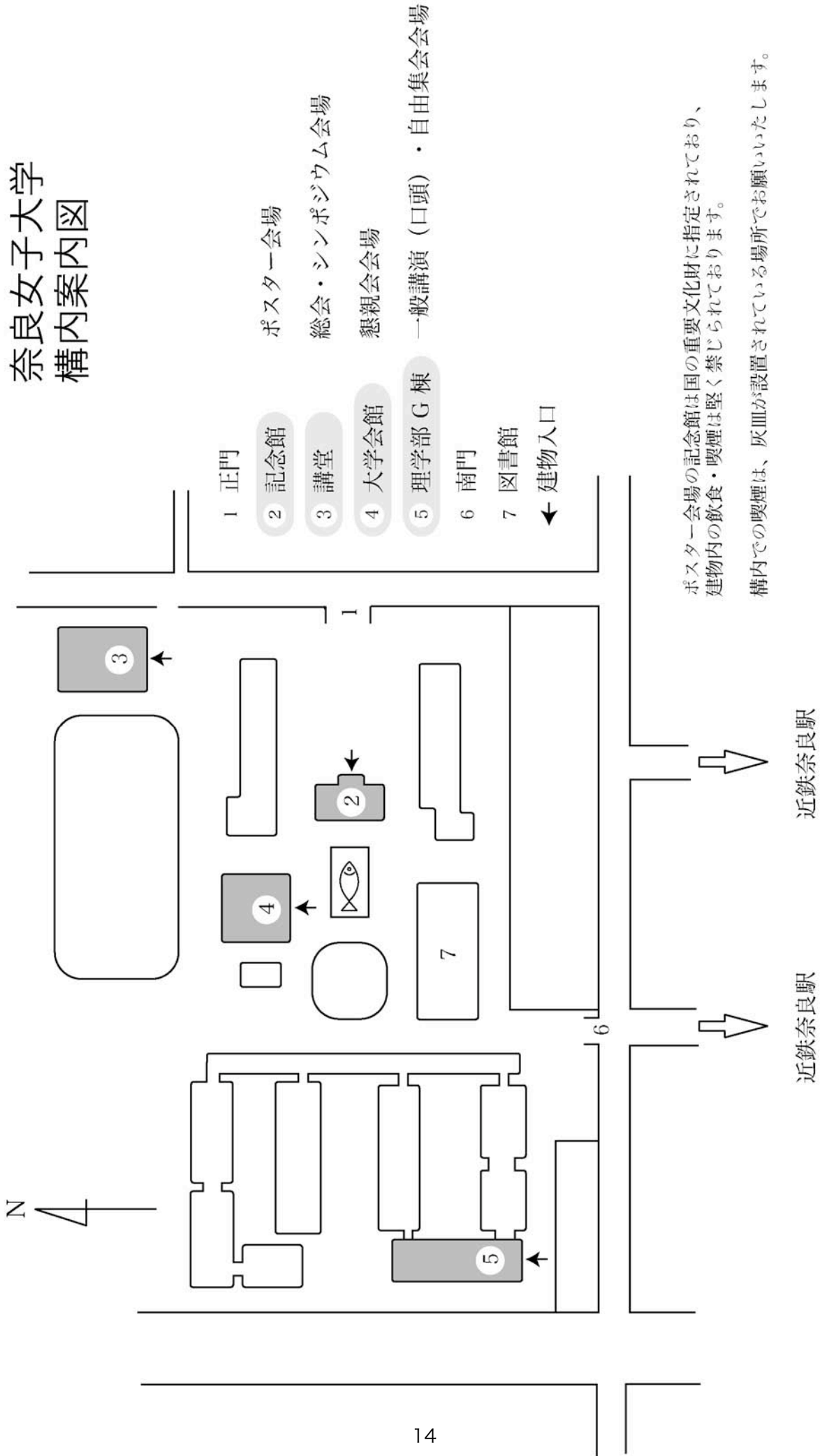
9月18日(土) 18:00~ 20:00

- M2 A会場 理学部G棟 G101  
里山に住む猛禽類の生態と保全(第4回)ハチクマの生態と保全  
百瀬浩(中央農研・鳥獣害研)・中村浩志(信州大・教育・生態)
- M3 B会場 理学部G棟 G201  
時をかける形態学  
川上和人(森林総合研究所多摩森林科学園)
- M4 C会場 理学部G棟 G202  
日本における海鳥の現状と課題Ⅲ  
小野宏治(北海道海鳥センター)
- M5 D会場 理学部G棟 G203  
寄生するものとされるものー「鳥とダニ」遠くて近い両者の関係  
鶴見みや古(山階鳥類研究所)
- M6 F会場 理学部G棟 G302  
ガンカモ類重要生息地における保全状況の過去10年の進展と今後の課題  
宮林泰彦(雁を保護する会)
- M7 E会場 理学部G棟 G204  
カラス  
川内博(日本野鳥の会・東京支部)

9月20日(月) 14:45~ 16:45

- M8 A会場 理学部G棟 G101  
鳥インフルエンザに鳥類研究者はどのように関わるか  
金井裕(日本野鳥の会)
- M9 F会場 理学部G棟 G302  
Make Our Movies Open 映像データベースへのお誘い  
森貴久(帝京科学大学)
- M10 B会場 理学部G棟 G201  
音声データによる鳥類のモニタリング ADAM (=Acaoustic Data for Avian Monitoring)  
石田健(東京大学)
- M11 C会場 理学部G棟 G202  
シギチドリネットワークを通じた湿地の保全  
天野一葉(WWF)
- M12 D会場 理学部G棟 G203  
猛禽類の調査研究と保護の手法について考える(第7回目)  
飯田知彦(広島クマタカ生態研究会)

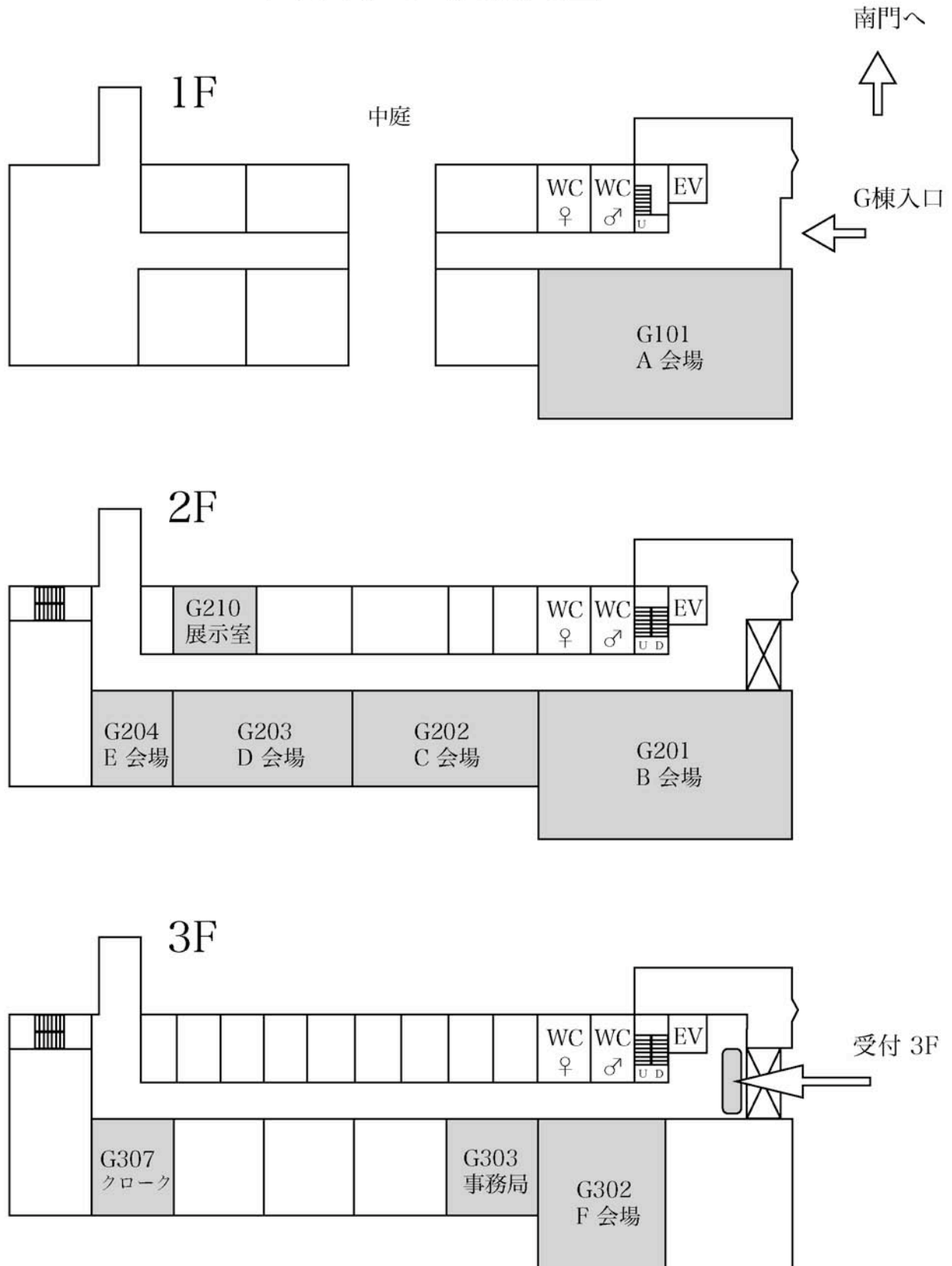
# 奈良女子大学 構内案内図



ポスター会場の記念館は国の重要文化財に指定されており、  
建物内の飲食・喫煙は堅く禁じられています。

構内での喫煙は、灰皿が設置されている場所で行っていただきます。

# 理学部 G 棟案内図



9:00~ 17:30 の間、G202, G203 を休憩室としてお使い頂けます。  
G棟内には研究室が入っております。教室移動の際には努めて静粛をお願いいたします。

日本鳥学会 2004 年度大会  
講演要旨集

2004 年 9 月 17 日発行

編集・発行 日本鳥学会 2004 年度大会事務局  
大会会長 重定南奈子  
事務局長・会計 高須夫悟  
会計監査 日野輝明  
イラスト 松原始

〒630-8506 奈良県奈良市北魚屋西町  
奈良女子大学理学部情報科学科  
自然情報学講座(2)  
Tel/Fax (0742) 20-3983  
E-mail: takasu@ics.nara-wu.ac.jp  
Web: <http://gi.ics.nara-wu.ac.jp/OSJ04/>

---

日本鳥学会

会長 樋口広芳  
事務局 〒113-8657 東京都文京区弥生 1-1-1  
東京大学大学院農学生命科学研究科  
生物多様性科学研究室気付  
Tel (03) 5841-7541 Fax (03) 5841-8192  
E-mail: [osj@lagopus.com](mailto:osj@lagopus.com)  
ホームページ <http://wwwsoc.nii.ac.jp/osj/>